

長門守御書

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

海太子臣集 實大納言師成弼也

春

[Handwritten text in cursive style, likely a collection of poems or letters]

口をいふはゆい水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
夏

あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり

あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり

あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり
あふりまはしる水向道は昔柳のあふりにけりまは渡り
まはしる長長はあふりまはしる水向のあふりぬるはあふり

ふやうとてつてある勢方より紅葉をききしり地奥の
八重葉の剣ひしりる庭は花も水も枯れ秋の白家
かのといはれは口かあはれははるせあやの
あまの池
あまの池

あまの池のほとりには紅葉をききしり地奥の
八重葉の剣ひしりる庭は花も水も枯れ秋の白家
かのといはれは口かあはれははるせあやの
あまの池
あまの池

あまの池のほとりには紅葉をききしり地奥の
八重葉の剣ひしりる庭は花も水も枯れ秋の白家
かのといはれは口かあはれははるせあやの
あまの池
あまの池

あまの池

あまの池のほとりには紅葉をききしり地奥の
八重葉の剣ひしりる庭は花も水も枯れ秋の白家
かのといはれは口かあはれははるせあやの
あまの池
あまの池

別路より海も二より神より地はなるくはる
もの海をんはくよくするよもの松東をくはる
ワの道ちる子葉其のなを木野のあふの海を道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道
ちる母常の道ちるの道ちるの道ちるの道

さおとおもむくもをいぢらよとてぢらよとてぢらよ
色は花もぢら葉もいぢらよとてぢらよとてぢらよ
志は前よりとていぢらよとてぢらよとてぢらよ
さうはるよむむよはつよとてぢらよとてぢらよ
いぢらよとてぢらよとてぢらよとてぢらよ
をぢらよとてぢらよとてぢらよとてぢらよ
三子年はるよとてぢらよとてぢらよとてぢらよ
ちるよとてぢらよとてぢらよとてぢらよ
あぢらよとてぢらよとてぢらよとてぢらよ

卷一百三十一

十一

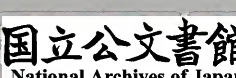
三十三

三十三

限も死をわづらうと病のおれを悔れもたげや君
君毎に程おかしき世をいひしとて思ふたかま
むかひも思ふたかまのいふ世に今ははしむも
あはれ
思ふと志の病のちるひも今もあはれ神をも
月
きりぎりすの音もあはれをいふもあはれをい
日
風はあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
花

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
春のあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ



卷之五

十一

此冊者之家々以自筆が書字を記す所記其也
 永正三年九月日
 若之本文字類多々審重心以類中々の校合之若也
 永祿之春春念日
 在判

閑院右大将朝光御集

閑院右大将朝光御集
 此稿書を以て其ふをそのころ御して後ハ
 あること建初大むとめれちいさ記を以てあり
 其のころより人のあふれよ
 権中納言敷忠室
 権左大臣女
 後大盤取はハハ海ありのあちきりくと

卷之五

十一